

あいじょうの交かん

宮城県

仙台市立向陽台小学校二年

柏崎 日向子

「ひどいよ。そんなお母さん、いないよ。」それは、ほんとうのことなのに、ゆうりちゃんはおどろいていました。学校でゆうりちゃんに聞かれたのです。

「日向子ちゃんのお母さん、日向子ちゃんがいたところがあるとき、なんて言う。」

「うちのお母さんね、『そんなものはなくそをつけておけばなおるよ。』って言うよ。」

わたしは、そう、おしえてあげました。ほかにも、おかしなふくろをあけてもらったら、お母さんは「口たべてから、かえしてくれることも教えてあげました。」

「日向子ちゃんのお母さん、ひどーい。」
とクラスのみんなが言いました。

わたしのお母さんは、あまっちょろいのが大きらいです。ちよつとのすりきずを大げさにいたがるのは、すきではありません。はさみがあるのに、おかしなふくろを人にかけてもらうような、くふうをしない人を、すきではありません。自分のことは自分でできるのに、それをしない人を好きではありません。わたしのお母さんは、もしかすると、みんなが言うように、ひどい人なのかな。いいえ、ちがいます。お母さんは、ちつともひどい人ではありません。なぜなら、どうしてお母さんがこんなにきびしいのか、わたしはきちんと、理由を知っているからで

す。わたしのお母さんは、わたしがだめ人げんにならないようにあいじょうをくれているのです。お母さんが何でもしてあげると、しょう来その人は、だめ人げんになるそうです。

お母さんは毎ばん、おふとんの中でわたしに本を読んでくれます。そして、ギユツとだきしめてくれます。毎朝、学校に行く時には、

「たのしんでおいでねー。」

と、大きな声で言ってくるし、わたしが角をまがるまで、ずつと手をふつてくれています。とつぜん、ほつべにキスもしてくれれます。いつも、

「あいじょうが足りなくなったら教えてね。」と言います。あいじょうが足りなくなった時は、だつこをしてももらいます。すると、あいじょうまんたんになったわたしは、パワーアップできるのです。あいじょうは、時々きびしくて、時々やさしい、むずかしいものです。

お母さん、お母さんのよさは、よその人には分かりづらいみたいだけれど、あん心してね。お母さんの心からわたしの心に、きちんとメッセージはとどいているからね。せかいで一ばん、お母さんが大好きだよ。これからも、わたしにいっぱいあいじょうをちょうだいね。わたしも、お母さんに、ありったけのあいじょうをあげるからね。